



地質調査所報告 第二百二十一號

(昭和十二年度事業報告)



資料室

MAR 12 1940

地質調査所報告 第二百二十一號 昭和十四年三月

目次

昭和十二年度事業報告

昭和十二年度事業報告

目次

地質係	一頁
地形係	六頁
分析係	一〇頁
鑛物陳列館	一一頁
文庫	一四頁
庶務	一八頁
出版物	二一頁
職員	二四頁

昭和十二年度事業報告

地質調査所長 山根 新次

地 質 係

昭和十二年七月八月ニ互リ露都ニ於テ第十七回萬國地質學會議開催セラレタリ。本所ニ於テハ其議題ノ地質調査應用地質及鑛物資源ニ關スルモノ多キヲ認メ政府代表トシテ技師植村癸巳男ヲ派遣シ會議ニ列席セシメ又會議前後ノ學術旅行ニ參加セシメタリ。

一、圖 幅 調 査

本年度ニ於テ調査シタル七萬五千分之一地質圖幅ハ其數七ニシテ、調査未完二圖幅、調査完

結五圖幅ナリ。

其圖幅名、調査員、其他左表ニ示スガ如シ。

(圖幅名)	(調査員)	(野外調査期間)	(記 事)
延岡	石井技師	昭和十二年 自四月二十四日 至四月二十四日	前年度着手、調査完結
琴平	佐藤(戈)技師	昭和十二年 自八月七日 至十一月十二日	前年度着手、調査完結
角森	佐藤(源)技師	昭和十二年 自十二月三十一日 至十二月三十一日	前年度着手、調査完結
那智	鈴木技師	昭和十三年 自一月十三日 至三月三十一日	本年度着手、調査未完
下田	石井技師	昭和十三年 自一月十八日 至三月十九日	本年度着手、調査完結

二、油田調査

油田地質精査ハ本省ニ於テ前年度ヨリ繼續セル液體燃料自給促進事業ノ一部トシテ、本所ノ擔當セルモノナリ。而シテ本年度ニ於テ調査シタル油田、物理探鑛調査區域、調査員其他ハ左表ノ如シ。

(調査油田)

(調査員)

(野外調査期間)

(記事)

山形縣飽海

金原技手

昭和十二年 自八月十一日至十月二十三日

本年度着手、調査完結

山形縣飽川海

三土技師

昭和十二年 自八月十四日至十二月二十五日

同右

新潟縣鹽谷

松澤技師

昭和十二年 自八月二十七日至十二月十七日

同右

北海道稚内

竹原技手

昭和十二年 自九月二日至十二月二日

同右

新潟縣新津南部

遠藤技手

昭和十二年 自九月二十三日

同右

新潟縣下(電氣探鑛)

千谷技師

昭和十二年 自六月二十五日至六月三十日

新潟縣柏崎町(彈性波探鑛)

西川技手

昭和十二年 自八月十一日

秋田縣雄物川、能代(電氣探鑛)

吉田技手

昭和十二年 自八月九日

秋田縣下物理探鑛及試掘井

紺野技師

昭和十二年 自八月十一日至十一月九日

千谷技師

昭和十二年 自七月二十八日至七月三十一日

秋田縣雄物川、能代、吉乃
新潟縣大、口(電氣探鑛)

秋田縣雄物川、能代、試掘井

秋田縣雄物川、能代(地震探鑛)

新潟縣及秋田縣下油田

北海道稚内油田

新潟縣大口(地震探鑛)

秋田縣金足村試錐

秋田縣金足村試錐
新潟縣加治村油田

秋田縣金足村試錐

光吉技師

西川技師

吉田技師

神永囑託

千谷技師

波江野囑託

千谷技師

千谷技師

波江野技師

遠藤技師

千谷技師

遠藤技師

昭和十二年 自八月十四日

昭和十二年 自九月五日

昭和十二年 自九月四日

昭和十二年 自九月十七日

昭和十二年 自九月十三日

昭和十二年 自九月十五日

昭和十二年 自十月三十一日

昭和十二年 自十一月十四日

昭和十二年 自十一月十七日

昭和十三年 自一月二十五日

昭和十三年 自二月二十六日

昭和十三年 自三月二十七日

三、特別調査

査

本年度施行シタル特別調査ハ總計八件ニシテ其件名調査員野外調査期間左ノ如シ。

(調査件名)

(調査員)

(野外調査期間)

千葉縣	下天然瓦斯	三上技師	昭和十二年	自四月三日至四月三日
長野縣	澁澤町石油徵候地	金原技手	昭和十三年	自六月二十六日至七月十五日
岩手縣	出羽澤鏡山電氣探鏡	紺野技手	昭和十二年	自七月十二日至八月十日
北海道	様似郡様似村ニツケル鏡	石井技師	昭和十二年	自十一月十六日至十一月十六日
秋田縣	吉野鏡山地震探鏡	波江野囑託	昭和十二年	自十一月二十五日至十一月二十五日
山形縣	鑛業資源	蘭部技師	昭和十二年	自十一月二十一日至十一月二十一日
岩手縣	鑛業資源	赤木技師	昭和十二年	自十一月二十一日至十一月二十一日
宮城縣	鑛業資源	赤木技師	昭和十二年	自十一月二十一日至十一月二十一日
北海道	金鏡調査	赤木技師	昭和十二年	自十一月二十一日至十一月二十一日
北 海 道	金鏡調査	赤木技師	昭和十二年	自十一月二十一日至十一月二十一日
靜岡縣	相良油田	金原技手	昭和十三年	自三月二十日至三月二十日

四、受託調査

本年度受託調査ハ八件ニシテ其件名調査員其他左表ノ如シ。

(調査件名)

(調査員)

(野外調査期間)

(調査申請人)

山梨縣北巨摩郡清里村 附近溫泉 試掘地	佐藤(戈)技師	昭和十二年 自七月五日 至七月九日	立川 精平
秋田縣山本郡澤目村水澤 石鑛區地質	千谷技師	昭和十二年 自八月一日 至八月六日	大和石油鑛業株式會社 田村
樺太 久春内炭田	渡瀬技師	昭和十二年 自九月八日 至九月二十八日	品川白煉瓦株式會社 青木均
大分縣速見郡豐岡町 所謂石油 徵候地々質	千谷技師	昭和十二年 自九月二十三日 至九月三十日	中島 猛四郎
新潟縣 南魚沼郡鹽澤村及中魚 沼郡六箇村石油地々質	千谷技師	昭和十三年 自十月九日 至十月十四日	物部 長雷
栃木縣日光町附近大谷川峽谷地質	渡邊技師	昭和十二年 自十月十三日 至十月十五日	古河石炭鑛業株式會社 佐々木敏綱
宮城探登第五四號硫黃鑛床並溫泉	渡瀬技師	昭和十二年 自五月五日 至五月十三日	常盤鑛業所 押野貞次郎
中華民國察哈爾省龍烟鐵鑛	赤木技師 吉田技師手	昭和十三年 自二月十五日 至三月三十一日	興中公司 河信二

前記受託調査ノ外植村技師、紺野技師、波江野技師、西川技師、神永技師、田村技師ハ海軍省ノ囑託ニ依リ臺灣油田ノ一部ヲ調査シタリ。

地 形 係

(甲) 測量

一 圖幅測量

本年度ニ於テハ圖幅測量ハ之ヲ施行セズ。

二 特別測量

本年度ニ於テ施行シタル特別測量ハ左ノ如シ。

(測 量 地 名)

秋田縣南秋田郡雄物川、山本郡能代南部、秋田郡豊川各油田

同

北海道樺戸郡徳富油田

臺灣豫備油田

北海道宗谷郡稚内油田

新潟縣南蒲原郡、中蒲原郡新津南部油田

静岡縣田方郡伊豆長岡町

(測量員)

及川 囁託

山下 技手

久松 技手
芦澤 技手

久松 技手

村田 技手
中川 技手

小川 技手
羽鳥 技手

小川 技手
伊佐 技手
宮澤 技手

(測量期間)

昭和十二年 自九月七日
至三月十六日

同 自九月廿三日
至三月十六日

同 自八月廿五日
至七月廿一日

昭和十三年 自三月六日
至三月卅一日

昭和十二年 自八月一日
至七月廿八日

昭和十二年 自九月一日
至七月十八日

昭和十三年 自三月三日
至三月廿二日
同 自三月廿七日
至三月廿二日

(記 事)

地質係三土技師、波江野技師ノ調査ニ伴フ

同

海軍省ノ依囁ニヨリ地質係植村技師ノ調査ニ伴フ

地質係竹原技手ノ調査ニ伴フ

地質係遠藤技手ノ調査ニ伴フ

産金獎勵ニ關スル調査

岩手縣稗貫郡出羽澤鑛山
秋田縣南秋田郡雄物川、山本郡能代
各油田

新潟縣古志郡大口油田

山形縣南置賜郡大峠陶石產地外五箇
處
宮城縣刈田郡圓田砒礫土產地外三箇
處
岩手縣和賀郡黑澤尻礫土鑛產地

山形縣飽海郡飽海油田

靜岡縣榛原郡相良町

小松 技手

昭和十二年 自七月十二日
至七月三日

地質係野口技師、波江野技師、紺
野技師ノ調査ニ伴フ

同

同 自十月十五日
至五月十七日

同

武田 技手

自昭和十二年十月廿一日
至昭和十三年一月二十日

地質係蘭部技師ノ調査ニ伴フ

笹井 囁託
鈴木 技手

昭和十二年 自七月廿六日
至十月廿三日

地質係三土技師ノ調査ニ伴フ

笹井 囁託
磯崎 雇

昭和十三年 自三月一日
至三月二十日

液體燃料自給促進ニ關スル調査

和田 雇

同 自三月四日
至三月廿三日

同

村尾 雇

同 自三月九日
至三月廿三日

同

三 受託調査ニ伴フ測量

本年度ニ於テ施行シタル受託調査ニ伴フ測量ハ左ノ如シ。

(調査件名)

中華民國察哈爾省龍烟鐵鑛

(測量員)

村田 技手

(野外測量期間)

昭和十三年 自二月十五日
至三月卅一日

(記事)

赤木技師ノ調査ニ伴フ

四 圖幅經緯度計算

本年度ニ於テ施行シタル圖幅經緯度計算ハ左ノ如シ。

(圖幅名)

(擔當者)

(記)

(事)

鬼首	相川	那智	下田
久磯	同	宮村	磯宮
松崎	同	尾澤	澤崎
手雇	同	雇	雇
本年度着手、本年度完成	同	同	同

(乙) 製圖

一 圖幅

七萬五千分一圖幅地形原圖ノ本年度中ニ完成セルモノ其數三、着手後未完成ノモノ其數五ニシテ其圖幅名製圖員其他左表ノ如シ。

(圖幅名)

(製圖員)

(記)

(事)

伊野相見技手

昭和十年度着手、完成

相	琴	森	鶴	秋	鬼	角
		吉				
川	平	山	來	田	首	館
土	小	笹	奧	小	土	神
岐	宮	原	田	宮	岐	村
技	山	技	技	山	技	技
手	技	手	手	技	手	手
同	手	同	同	昭 和 二 年 度 着 手、 未 完 成 (中 止)	本 年 度 着 手、 完 成	昭 和 十 年 度 着 手、 完 成
		本 年 度 着 手、 未 完 成				

二 特 別 製 圖

本年度ニ於テ施行シタル特別製圖ハ左ノ如シ。

	(製 圖 件 名)		(製 圖 員)		(記 事)
十	萬分一沖繩諸島	小	宮 山	技 手	本 年 度 着 手、 完 成
同	八重山及宮古諸島	笹	原	技 手	同

分 析 係

本年度ニ於ケル分析品目、箇數、成分檢定數、細別左表ノ如シ。

(品名)	(箇數)	(成分檢定數)	(品名)	(箇數)	(成分檢定數)
岩石	一〇	八七	鉛鑛	二	一〇
粘土	四一	三五六	水銀鑛	二	二
白土	八	六五	鑛石	二一	八八
鑛物	三	一八	磷鑛	一	二
礬土	二	六	硫黃鑛	一九	八三
金銀鑛	一五一	三五五	鑛泉	二六	三八四
銅鑛	二	八	原油	一四	八四
鐵鑛	一一	二五	頁岩	七	七
砂鑛	四	一三	天然瓦斯	二〇	一三九
「ニツケル」鑛	四六	二二四	石炭	一七	八〇
「クローム」鑛	二	三	計	四〇九	二〇三九

右ノ外工業品規格統一調査會ニ於ケル分析法制定ノ爲メ研究分析ニ從事セリ。

鑛物陳列館

陳列中ノ鑛物、岩石鑛石及化石並ニ本所出版地質圖類ハ本年度末ニ於テ總計約七千六百點ニ達シ本邦產ノ鑛物ハ殆下其全部ヲ網羅シ得タリ。

本年度内ニハ購入標品無カリシモ本所員ノ蒐集ニヨルモノ及所外有志ノ寄贈ニヨルモノ多數アリ。寄贈標本ハ何レモ本館ノ陳列品ニ光彩ヲ添加スルモノニシテ就中北海道日高國靜内郡農家村富本鑛山産自然鋼ハ長サ約六十糎幅三十糎内外、重量約十匁ノ大塊、靜岡縣賀茂郡下河津村繩地鑛山産輝銀鑛ノ結晶ハ小結晶ノ集合體ニシテ珍貴ノモノ、大分縣大野郡三重町若山鑛山産ノ針「ニッケル」鑛ハ本邦ニ於テハ初メテ發見セラレタル新鑛物ナリ。

本年度ニ於ケル參觀者ノ小計ハ四百六十八名ニシテ前年度ニ比シ倍加シ益々増加ノ傾向ヲ示シツツアリテ昭和八年開館以來ノ累計ハ千六百八十五名ナリ。

左ニ受領セル寄贈標品及寄贈者芳名ヲ錄シ以テ謝意ヲ表ス。

寄 贈 標 品

(鑛 物 名)

(産 地)

(寄 贈 者 氏 名)

輝 安	鑛 鐵	德島縣那賀郡相生村相生鑛山	伊 原 敬 之 助
白 色 土 狀 藍 鐵 鑛		北海道北見國宗谷郡稚内町大字 幕別村 沼川 北海道農事試驗場	原 田 準 平
自 然 「テ ル 、」		北海道石狩國札幌郡手稻村手稻鑛山	同
硫 黃		北海道知床半島	同
「ホルンフェルス中」の圓球		北海道十勝國廣尾郡廣尾村音調津	同

硅漢土小瓶入見本十九本

砂 鐵 鑛

自 然 銅

同

同 大型

含「ニツケル」磁硫鐵鑛

同

黃 銅 鑛

「ク ロ ー ム」鐵 鑛

同

同 (結 晶)

同 (大 型)

現 世 卷 貝 千 年 貝

磁 鐵 鑛 (結 晶)

金 雲 母

輝 銀 鑛 (結 晶)

硅 「ニ ツ ケ ル」 鑛

Solenya (Adulomya?)
hachiyai Nomura

亞米利加產

種子島、岩手縣、北海道產

北海道日高國靜内郡農家村

北海道日高國靜内郡農家村「ボヨ」澤

北海道日高國靜内郡農家村

北海道日高國樣似郡樣似村「ニツカンベツ」幌滿鑛山

北海道日高國樣似郡樣似村「ニツカンベツ」幌滿鑛山

北海道日高國樣似郡樣似村「ニツカンベツ」幌滿鑛山

北海道日高國沙流郡糖平村天惠坑

北海道日高國沙流郡糖平村辨慶坑

北海道日高國沙流郡貫氣別村西神イ號

北海道日高國沙流郡貫氣別村字「ペンチハシナラ」

「フィリッピン」

Danajon Prov of Surigao Mindanao, Philippines

山東省諸城縣殷家洞及崔家溝

靜岡縣賀茂郡下河津村繩地鑛山

「ニウカレドニア」產

青森縣西津輕郡赤石村南金澤

「バ ー ソ ロ ミ ウ」

日本砂鐵工業株式會社

富 本 朝 二

同

同

同

同

同

同

同

同

同 千 谷 好 之 助

同

同 大 森 豐 五 郎

同

同 繩 地 鑛 山

同 村 山 賢 一

同 野 村 七 平

水	晶	石
硫	酸	鉛
針	「ニツケル」	鑽
織	維	亞
瑪	鉛	鑽
玖	鑽	鑽

朝鮮黃海道長淵郡
秋田縣鹿角郡小坂町小坂鑽山
大分縣大野郡三重町若山鑽山
青森縣下北郡大奥村青森鑽山(舊稱大瀧鑽山)
岩手縣磐井郡矢越村三枚山鑽山

大	山	天	木	同
島	根	野	下	
十	新	彌	龜	
郎	次	三	城	

文庫

本年度内ニ本邦ノ官廳、大學、學會、博物館、會社等ノ交換先ヨリ圖書ノ寄贈ヲ受ケタルハ七十箇處ニシテ受入圖書ハ次ノ如シ。

官會	交換先	箇處數	受入圖書	
			(地質圖)	(報文類)
大學、學會、博物館等	社	二九	六	二九〇
計		四四	六	四八九
		七七	六	二八
				八〇七

本年度内ニ於テ交換先以外ノ處ヨリ圖書ノ寄贈ヲ受ケタルハ十七箇處個人ノ好意ニヨリテ特ニ貴重ナル圖書ノ寄贈ヲ受ケタルモノ五件アリ。之ヲ左ニ録シテ謝意ヲ表ス。

官廳	大學、學會、圖書館等	會社	個人	計	本邦ノ寄贈合計
(寄贈先)					
(箇處數)	一〇	二	五	二二	九九
(地質圖)					
(地形圖)					
(報文類)	六	一八	一三	四八	八五
受入圖書					
(地質圖)					
(地形圖)					
(報文類)					
圖書					
(地質圖)					
(地形圖)					
(報文類)					
圖書					
(地質圖)					
(地形圖)					
(報文類)					

本邦ノ官廳、大學、圖書館、博物館、會社及個人ニ對シ本所出版物ヲ發送シタル交換先六十箇處、其他二百二十六箇處ニシテ寄贈圖書及部數左ノ如シ。

官廳	大學、學會、圖書館、博物館等	會社	計
(交換先)			
(箇處數)	二四	三二	六〇
(地質調查所報告)	七五	一〇五	一九二
(地質要報)	二五	三五	六四
(地質圖幅及同說明書)	一二五	一七五	三二〇
(油田圖及同說明書)	五〇	七〇	一二八

(其他)

購入圖書ハ地圖一幅書籍八十九冊歐文雜誌八十二種三百七冊ニシテ左ニ示スガ如シ。

地質學及地理學ニ關スルモノ	(地 形 圖)	一	(書 籍)	四一	(歐 文 種 誌)	一〇種	二三〇冊
物理探鏡ニ關スルモノ				三			
化學及其應用ニ關スルモノ				三三		二	七七
其 他				一二			
合 計		一		八九		一二	三〇七

庶 務

所員ノ異動左ノ如シ。

任 命

技師	野口 高
技師	松澤 勳
技師	波江野清藏
技師	平塚隆治

退

職

囑託	囑託	技手	技手	技手	技手	技手	技手	技手	技手	技手	技師	技師	
松澤武雄	大野 尅	萬 芳 三	山 下 章	田村清一	關根森之助	田畑政治	芦澤文夫	神永幸三	吉田貞次	西川與志男	竹原平一	遠藤六郎	紺野芳雄

分析係長技師 大野 赴

分析係長技師大野赴氏ハ昭和十二年十一月三十日依願本兼官ヲ免ゼラレタリ。氏ハ明治四十年七月本所ニ初メテ奉職シ分析係ニ勤務、大正二年一旦鑛務署ニ轉ゼラレシモ大正十四年復タ本所ニ勤務、爾來分析係長トシテ分析事業ヲ統轄指導セラレ斯クテ在職三十有餘年、孜孜精勵シ尙工業品規格統一調査會事務ニ參加シ化學工業ニ盡瘁セラル、等本所ノ事業ノミナラズ本邦産業ノ發展ニ資セラレ其功勞沒スベカラズ。退官後モ囑託員トシテ本所ノ事業ニ參劃セラレツ、アルハ本所ノ幸トスル所ナリ。

報告會 本年度ニ於ケル報告會ハ七回開催シ各技術官擔任ノ業ニ就キ報告ヲ爲シ討議研究セリ。

經費 本年度經費左ノ如シ。

經常費

俸 給 五三、四一四圓

事業費 五二、三一九圓

臨時費

液體燃料自給促進費 一四七、二七〇圓

出版物

地質調査所報告

第一二〇號

昭和十一年度事業報告

地質調査所長

山根

新次

地質要報

第二十七卷第一號

常磐炭田中新期介化石

商工技手

金原

均二

地質圖幅

新居濱圖幅

商工技師

佐藤

戈止

大聖寺圖幅

商工技師

藺部

龍一

田邊圖幅

商工技師

鈴木

達夫

高梁圖幅

商工技師

佐藤

源郎

地質圖幅說明書

白馬嶽圖幅

商工技師

石井

清彦

勿來圖幅

宿毛圖幅

新居濱圖幅

西大寺圖幅

大日本帝國油田圖並ニ同説明書

第三十三區 秋田縣仁賀保油田地形及地質圖

第三十四區 北海道空知油田地形及地質圖

第三十五區 長野縣長野油田地形及地質圖

商工技師 渡邊久吉

商工技師 鈴木達夫

商工技師 佐藤戈止

商工技師 佐藤源郎

商工技師 三土知芳

商工技師 鈴木昇

囑託 及川常吉

商工技師 飯塚保五郎

商工技師 芦澤文夫

囑託 笹井泰造

商工技師 鈴木達夫

大日本帝國油田圖說明書

商工技手 村田近良
商工技手 鈴木昇

第三十六區 新潟縣岡野町油田地形及地質圖說明書

商工技師 渡邊久吉

炭田圖說明書

常磐炭田第五區 常陸國多賀郡松原町附近地質說明書

商工技師 紺野芳雄

常磐炭田第六區 磐城國雙葉郡久之濱町附近地質說明書

商工技師 紺野芳雄

技手	小松直藏	技手	秋本龍雄	技手	磯野清
技手	竹原平一	技手	齊藤正次	技手	金原均二
技手	鈴木昇	技手	西川與志男	技手	吉田貞次
技手	神永幸三	技手	芦澤文夫	技手	田畑政治
技手	關根森之助	技手	田村清一	技手	山下章
技手	萬芳三				
囑託	大野 尠	囑託	笹井泰造	囑託	及川常吉
囑託	松澤武雄				

昭和十四年三月二十五日印刷

昭和十四年三月三十一日發行

定價金 七拾錢
郵稅金 參錢

著作權所有

商 工 省

東京市深川區白河町四丁目一番地一

印刷者

松 井 方 利

東京市深川區白河町四丁目一番地一

印刷所

東京印刷株式會社

東京市麴町區二番町十二番地

發行所

東京地學協會

電話九段(33)〇五〇九番
振替口座東京六六二七八番

IMPERIAL GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN

REPORT No. 121

Annual Report for the Year ended March 31, 1938

By

SHINJI YAMANE, Director.

Divion of Geology : In July to August, 1937, the seventeenth International Geological Congress was held at Moscow, Soviet Russia. The subjects for discussion in the session of the Congress involved many problems concerning geological survey, applied geology and mineral resources. Our Geological Survey sent an official deregate, K. Uyemura, geologist, to attend the session of the Congress and he joined the excursions before and after the session.

Four 1 : 75,000 Geological sheet-map areas of Nobeoka, Kotohira, Iya and Kakunotate were surveyed for completion and in continuation of the works preceeding years by three geologists. The mapping field works of sheet Moriyosi (Zone 7, Col. III, No. 23), Shimoda (Zone 28, Col. VII, No. 130) and Nachi (Zone 32, Col. XIII, No. 194) were newly started by three geologists in this fiscal year. The field works of five sheets of the above seven

were completed and those of the Moriyoshi and Nachi sheets were not completed and left to the future years.

The Oil-land survey, continued from the previous year, was carried on by five parties in this year. Mapping works, both topographic and geologic, of the Akumi oil-field in Pref. Yamagata, the Toyokawa oil-field in Pref. Akita, the Shioya and Niitsu oil-fields in Pref. Niigata and the Wakkanai oil-field in Hokkaidō were completed.

As special investigations, natural gas emanations in Pref. Chiba, nickel ore deposits of Hidaka in Hokkaidō, industrial mineral resources in the Prefectures of Yamagata, Iwate and Miyagi and some gold mines in Hokkaidō were visited by four geologists. Several oil-fields in Hokkaidō, Akita, Niigata, Nagano and Shizuoka were inspected by the geologists. Geophysical underground prospects were practised by the geologists and engineers, applying the electrical and seismic methods, in the oil-fields in Akita and Niigata and at two metal mines in the Akita and Iwate Prefectures.

At the request from the public, geologists were sent to examine a hot-spring in Pref. Yamanashi, the Kushunnai coal-field in Karafuto, several prospecting regions in the Akita, Niigata and Oita Prefectures, the geology of the Daiyagawa gorge, Nikkō, a sulphur deposit and a hot-spring in Pref. Miyagi. For geophysical prospecting applying the electrical and seismic methods, the geologists and engineers were sent to Taiwan and

some oil-fields were investigated.

Division of Topography: Eight Topographers and eight assistants were at field works, in connection with the geological surveying and geophysical prospecting, for cartography of the oil-fields of Wakkanai and Toppu in Hokkaidō, Toyokawa in Akita, Akumi in Yamagata and Niitsu in Niigata, some oil-fields in Taiwan, Akita, Niigata and Shizuoka and metal mines in Akita and Iwate. A topographer was engaged for mapping work of the industrial mineral localities in Iwate, Yamagata and Miyagi.

Calculations of formulas for projecting parallels and meridians of the 1:75,000 sheet-maps, Onikōbe, Aikawa, Nachi and Shimoda were made by a topographer and three assistants.

Drafting works of the 1:75,000 Geological sheet-maps of Ino, Kakunotate and Onikōbe were completed and those of five sheets, Akita, Tsurugi, Moriyoshi, Kotohira and Aikawa were under preparation at the end of this year.

Division of Chemistry: Rocks, minerals, ores, clays, mineral springs, natural gases, petroleums and coals that analysed in this year were numbered at 2,039.

Museum: 20 minerals, 4 ores and 3 miscellaneous kinds were contributed to the museum from people outside of the Survey, to whom the deepest appreciations are hereby expressed.

Library: Number of reports, books and maps which were added to the Library was as follows:

	Reports, Books and Magazines	Maps
By exchange at home	807	6
By exchange from abroad	842	150
By contribution at home	892	10
By contribution from abroad	56	0
By purchase	396	1
Total	2,993	167

General Affaires: A remarkable augment has occurred in the Survey staff according to general spreading business: three geologists, two assistant geologists, two engineers and three assistants, four chemists and two topographers were newly appointed.

Mr. Takeshi Ono, chief chemist, with our deepest regret, had resigned from his post, on Nov. 30, after his over thirty years' public service as a chemist with most earnest behaviour and genuine character.

The government appropriation granted to the Survey are as follows:

For the salaries	¥ 62,048
For the working expenses	52,319
For the Oil-land survey	297,613
	<hr/>
	411,970

Publications: One Survey Report, one Bulletin, four 1:75,000 Geological Sheet-maps, five Explanatory texts, three Topographical and Geological maps of the Oil-fields with Ex-

planatory texts, two Explanatory texts of the Detailed geological maps of the Coal-fields were published in this fiscal year.

Report of Imperial Geological Survey of Japan,

No. 120.....Annual Report for the year ended March 31, 1937.

By Shinji Yamane, Director.

Bulletin of the Imperial Geological Survey of Japan,

Vol. XXVII, No. 1.....Miocene Shells from the Jōban Coal Field.

By Kinji Kanehara.

The 1:75,000 Geological Sheet-maps,

Niihama.....Zone 31, Col. XVIII, No. 239.

By Hokoto Satō.

Daishōji.....Zone 21, Col. XII, No. 145.

By Ryūichi Sonobe.

Tanabe.....Zone 32, Col. XIV, No. 195.

By Tatsuo Suzuki.

Takahashi.....Zone 27, Col. XVII, No. 214.

By Motowo Satō.

Explanatory Text to the 1:75,000 Geological Sheet-maps,

Shiroumadake.....Zone 19, Col. IX, No. 136.

By Kiyohiko Ishii.

Nakoso.....Zone 19, Col. III, No. 80.

By Kyūkichi Watanabe and
Motowo Satō.

Sukumo.....Zone 35, Col. XIX, No. 254.

By Tatsuo Suzuki.

Niihama.....Zone 31, Col. XVIII, No. 239.

By Hokoto Satō.

Saidaiji.....Zone 28, Col. XVI, No. 219.

By Motowo Satō.

Topographical and Geological Map of the Oil Fields of the
Japanese Empire with Explanatory Text,

Sect. XXXIII, The Nikabo Oil Field, in Pref. Akita.

By Tomofusa Mitsuchi.

Sect. XXXIV, The Sorachi Oil Field, in Hokkaidō.

By Yasugoro Iizuka.

Sect. XXXV, The Nagano Oil Field, in Pref. Nagano.

By Tatsuo Suzuki.

Sect. XXXVI, The Okanomachi Oil-Field, in Pref. Niigata
(text only).

By Kyūkichi Watanabe.

Explanatory Text to the Detailed Geological Maps,

Jōban Coal-field, Sect. V, The Geology of the Environs of
Matsubara-machi, Taga-gun, Hitachi.

By Yoshio Konno.

Jōban Coal-field, Sect. VI, The Geology of the Environs of
Hisanohama-machi, Futaba-gun, Iwaki.

By Yoshio Konno.



IMPERIAL
GEOLOGICAL SURVEY
OF
JAPAN



REPORT No. 121



TOKYO, 1939